

平成26年度から28年度にかけて、各地区から出された提言書を基に、各地区の特色を活かした地区別のまちづくりの方向性を定めます。

○ 白木地区

白木山や神ノ倉山、三篠川の清流など豊かな自然にあふれ、地区全体が中山間地域となっており、地区を南北に縦断する主要地方道県道広島三次線の沿線は広島市の農業の屋台骨を支える農業振興地域となっている。そうした地域特性を活かし「交流するまち」をテーマに、「地域外から人が集まるまちづくり」、「4地区（三田、高南、井原、志屋）の特徴、魅力を活かしたまちづくり」、「若者が住み易いまちづくり」、「安全・安心で楽しく住み良いまちづくり」を4つの柱としたまちづくりを進める。

○ 高陽地区

広島市都市計画マスタープランにおいて、可部地区とともに地域的な都市機能を担う拠点地区に定められており、日常的な生活サービス機能を集積させ、拠点性の向上を図ることを地区全体の取組とするとともに、商業機能が集積し、都市的生活を享受することができる住宅団地地域、農山村の性格を有する中山間地域や古くからの市街地地域の3つのエリアが共存・共栄するまちをテーマとし、「住みやすい住宅団地地域」、「安心して暮らせる中山間地域」、「活気あふれる芸備線沿線の古くからの街並み」を目指したそれぞれの地域の特色を活かしたまちづくりを進める。

○ 可部地区

広島市都市計画マスタープランにおいて、高陽地区とともに地域的な都市機能を担う拠点地区に定められており、日常的な生活サービス機能を集積させるとともに、JR可部線の電化延伸や機能分化して新たに整備される北部医療センター安佐市民病院の開業などの節目をとらえ、交通インフラの整備や公共交通ネットワークの改善など圏域の拠点地域としてにぎわいを創出するまちづくりを進める。

○ 安佐地区

太田川中流域の美しい景観や急峻な山や谷、田園風景を代表する景観資源である棚田の風景など豊かな自然と市街地へ通勤できるベッドタウンとしての住宅団地が混在しており、地区内の地域差を抱えながらも、それらを活かし、住民の流出を減らし、住み続けることのできる「定住したいまち」を目標に掲げたまちづくりを進める。